



「優しさの大切さを学んだ体験でした」

～株式会社ユニクロ「全商品リサイクル活動」

株式会社ユニクロでは、販売した全商品を店舗で回収し、難民キャンプへ救援衣料として寄贈する「全商品リサイクル活動」を平成18年から行っています。

今年度は、ユニクロから「全商品リサイクル活動」を中心とした授業プログラムを都立高校で実施することを提案していただきました。下記で紹介した都立美原高校の他に、都立武蔵高校では、附属中学校との生徒会合同行事として、「全商品リサイクル活動」に取り組んでいます。

都立美原高校の取組

都立美原高校では、教科「奉仕」の授業の中にこのプログラムを導入しました。最初に担当の小柴さんから1年生全員に対して、ユニクロは



1

「衣服のありがた」を変えることで世界中の人々の生活を豊かにしていくためのCSR(企業の社会貢献)活動をしていること、その社会貢献活動の一つである「全商品リサイクル活動」の概要、そして実際に難民キャンプを訪問した時の様子等について話していただきました。

このプログラムを選択した16名が集まった最初の授業では、どのようにこの活動をアピールするかについてアイデアを出し合い、校内班、校外班に分かれて活動をすることにしました(写真1)。

6月には、「全商品リサイクル活動」のパートナーであるUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)駐日事務所を訪問し、世界で3,000万人を超える難民・避難民などの現状やUNHCRの活動について守屋由紀広報官からお話を伺いました。難民キャンプでは衣料が配られることで子供たちが学校に行ける



2

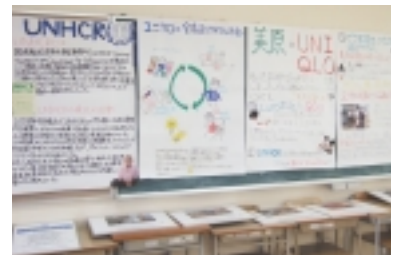


3

ようになるというお話があり、笑顔で服を選ぶ方たちの写真を見ながら、改めて生活に潤いを与える衣料の大切さと、活動の意味について考えることができました(写真2)。



校内班は、校内に掲示するポスターやPTAへの手紙、校内新聞の作成等を担当。校外班は、近隣小中学校・保育園への説明、商店街や駅前でのチラシ配布等を行い、回収日には地域の方が次々と衣料を持って来校。都立美原高校PTAの協力もあり、予想を超える約5,300枚の衣類が集まりました。この衣類を夏冬、男女、上下に分別する作業がとても大変でしたが、合計100箱のダンボール箱に入れて送ることができました(写真3)。まとめとして、協力していただいた商店街や小中学校等に報告のチラシを送るとともに、9月の文化祭でこの活動について発表しました(写真4)。



4

生徒からは、「衣料の分別が予想以上に大変でものすごく疲れましたが、衣料を受け取った難民の方の笑顔を思い浮かべて頑張りました。」「活動を通して、人々の温かさ、難民の人の大変さ、みんなで一つのことをやりとげる喜びを知りました。」「優しさの大切さを学んだ体験でした。」等の感想がありました。

ユニクロCSR部 小柴英子さんにお話を伺いました(写真2の前列右が小柴さん)

今回の事業で、体験することの大切さを感じました。生徒たちは、最初は先生にアドバイスされながらの活動でしたが、手を動かすことで主体的になり、地域の方たちに自ら訴えかけ、集まった衣料を「難民の方に喜んで着てもらえるか」という視点で分別するなど、心こもった活動になりました。時間は必要ですが、一つ一つの段階を経て、最後までやりきるとい授業になったのは、学校と一緒に授業プログラムを作り上げることができたからだと思います。また、高校と地域とのつながりをつくる活動にもなったことを、うれしく思っています。

【連絡先】株式会社ユニクロ <http://www.uniqlo.com/jp/csr/>